

平成27年度重点研究

I 学校教育目標 やさしく かしこく たくましく

目指す子どもの姿

思いやりのある優しい子

気づきを考えるかしこい子

粘り強くやりぬく子 たくましい子

II 今年度研究テーマにむけて

1 研究のコンセプト

(1) 今年度までの流れ

平成23年度 一人ひとりが主体的に取り組み、聴き合い響き合う学習活動

平成24年度 学んだことを生かして、友と関わりながら思考・表現を高めていくための指導と評価のあり方～言語活動を手段として～

平成25年度 思考・表現を高めていくための指導のあり方～言語活動を通して～

平成26年度 思考・表現を高めていく指導のあり方～言語活動を通して～

一人ひとりの主体性を大切にしながら、それを友とつなげていく研究を行い、言語活動に注目しながら、思考・表現について研究対象を絞り込んできた経緯がある。「思考・表現を高めるとはどんなことか。」「意欲的に学ぶ児童とはどんな姿か。そしてそのための手立ては何か。」ということが、昨年まで追究されてきた。

(2) 子どもの姿で語り合う研究、同僚とともに学ぶ研究

全校研究テーマに迫る上で、子ども達の様子や授業のあり方について課題を挙げ、指導の方向を検討しながら実現してきたことを具体的な子どもの姿を取り上げながら教師が共に学び合う。このことで、表面的にしか見えていなかったことや見過ごしがちであったことを教師同士気付き合いながら、子どもたちの内面で起きているものを感じ取れる教師の目(心)を学び合いたい。

(3) 重点研究と学年研究, 個人研究

地域の要請や子ども達の実態を考え、テーマ毎に部会を分けて研究を進めていく。部会毎に全校研究テーマに沿った形で研究テーマを定めていく。全校公開授業を企画し、学び合う場を作る。また、校外公開授業にも対応していく。

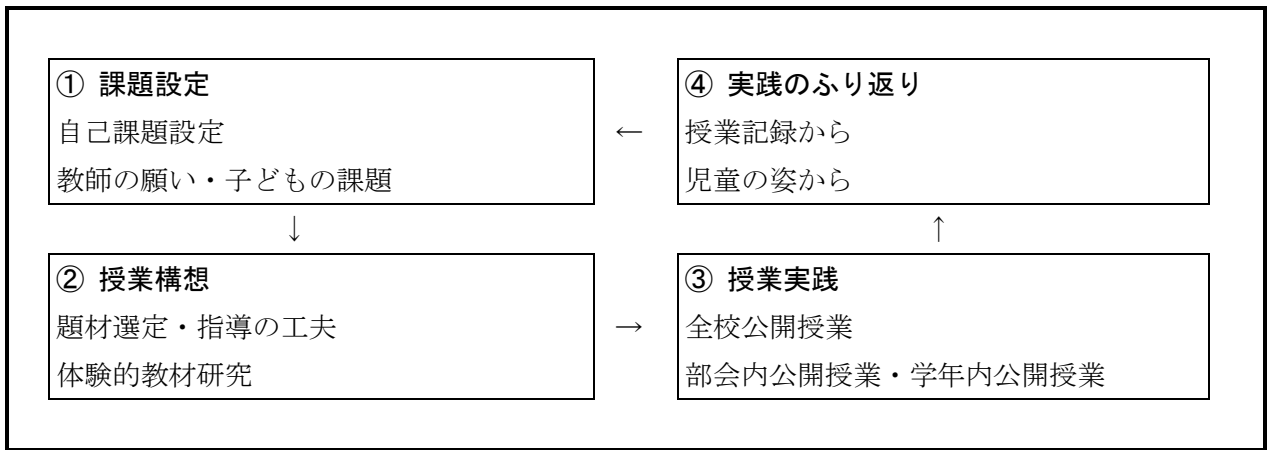
毎週行われる学年会の中での教材研究をはじめとして、日常的に気軽に授業のことを語り合い、授業を見せ合い、学年の中で生かされていくものにしたい。また職員全体で共有ができる教材や指導法の研修なども行う。

教師個人もそれぞれの課題を明確にして、各自が年度中に1回は授業を公開し、参観者が意見交換することで、一人ひとりの指導力向上を目指していく。

2 前年度の研究の成果と課題

(1) 研究の進め方

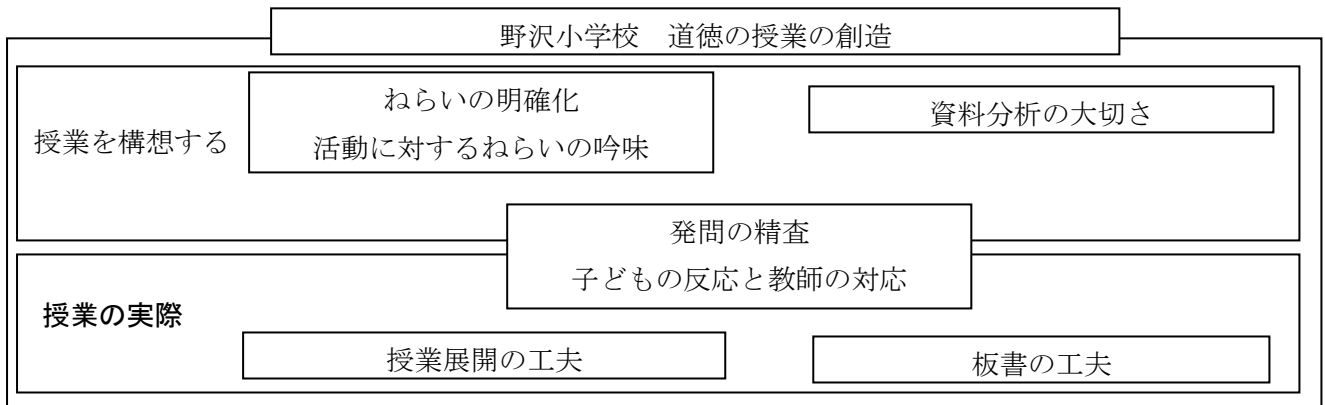
常に課題達成に向かって循環していく研究の仕組みを構築した。



- ① 課題設定 授業に寄せる思いやどのようなことにチャレンジしたいかを語る。(自己課題)
- ② 授業構想 実際に使う教材や授業の展開をみんなで体験し、授業を検討する。(体験的教材研究)
- ③ 授業実践 みんなで参観する。ビデオでの記録を行い、振り返りに使用する。(公開授業)
- ④ 実践の振り返り 参観した授業について語り合い、感想を授業者に伝える。(報告書作成)

(2) 道徳教育の授業のあり方

5つの視点と授業の組み立て (資料1 参照)



(3) 道徳教育を通した「思考・表現を高めていく」研究について

- 教師が、体験的教材研究や先行研究で学んだことを生かして授業を組み立てたことにより、意欲的に考え、発言しようとし始めたT児やS児 (1年)
- 学習カードへの吹き出しの使用、象徴的なさし絵の提示によって、子どもたちの思考を助け、自己表現しやすいように工夫 (2年)
- お互いの意見を交流する場面や、友達の意見と自分の考えを比較する場面を設けることにより、素直な自分の思いを表現しながらも、ねらう価値に心を寄せ始めたE児 (3年)
- 教師が、板書計画を立てながら道徳の授業を積み重ねたことで、道徳の授業に前向きに取り組み始めた子ども達 (4年)
- 教師がねらいを念頭に置きながら授業を行ったことにより、安心して登場人物と自分を重ねて考えを語ることでできたR児 (5年)
- 学年1学級の考えのもと、子ども達一人ひとりを理解し、共通する部分を明確にししながら、教師の個性を生かした授業交換の公開 (6年)

3 平成27年度の研究の方向

(1) 全校研究テーマ

上記の昨年度の成果と課題に基づき、授業の基本「見て聞く、見て話す」を徹底するとともに、課題

をもって自ら学んでいく児童の育成を目指し、研究テーマについては3年目の継続とし、引き続き「思考・表現を高めていく指導のあり方」に焦点をあてていったらどうかと考えた。これを仮のテーマとして提案し、新しいメンバーで確認して、修正加えた後、正式に研究テーマとしたい。

思考・表現を高めていく指導のあり方

(2) 研究の推進について

研究は下記の2つの方向から進め、研究テーマに迫っていく。

① 重点研究(低中高の3部会を組織)

各研究部会を構成するメンバーは、連学年を原則として組織する。そして、以下の3部会を設けたい。

- ・授業改善部会 … 思考・表現を中心とした授業改善とともに、朝学習や家庭学習について研究を進める。
- ・道徳教育部会 … 昨年度の研究を基にさらに研究を深めるとともに、購入した教材の活用も進める。
- ・外国語活動部会… 高学年の英語教育を中心として、小学校における外国語活動についての研究を進める。

各研究部会の研究内容をすべての学年において実践し、検証していける体制をもちながら進めていきたい。

② 学年研究・個人研究

- ・一人1公開を原則とし、全校公開授業、部会内公開授業、学年内公開授業、校外公開授業のいずれかで行うように考えていく。
- ・指導案の形式は自由。授業を公開する際には、事前に研究主任に連絡をする。報告レポートを作成する。
- ・授業学年の職員をはじめ、全職員ができるだけ都合を付けて参観し、互いに学び合う。参観者は授業から学んだことを簡単なレポートにまとめ、授業者に渡す。

4 研究計画

(1) 全校研究授業の予定

- 授業改善部会全校公開授業
- 道徳教育部会全校公開授業
- 外国語教育部会全校公開授業（教育課程研究協議会の事前授業）
- ※ 教育課程研究協議会（外国語教育）の公開授業が10月

(2) 研究計画、部会内授業について

- 教育計画にて今年度の方向を提案し、4月中に校長先生・教頭先生のご指導のもと、全校研究テーマなどを決定する。
- 研究テーマについては、全職員が共通認識のもとで研究を進めて行く。具体的には、4月中に1学級授業を公開し、思考・表現について語り合う場を設けたいと考えている。
- 平成27年度も県教育委員会学校教育課の指導主事を招聘した部会内授業を位置付けたい。